

【Part. 2】 地域個性を巡る小さなまち旅の事例集
～身近な地域の魅力の再発見～

1 小さなまち旅から考える景観づくりや地域づくりのテーマ

Part. 2 では、筆者の小さなまち旅を踏まえ、景観づくりや地域づくりの魅力を考える旅のテーマを設定し、「地域個性を巡る小さなまち旅の事例集」として写真と文章でわかりやすく伝えていく。最近5年間の旅が中心であるが、一部それ以前に旅した事例も含んでいる。

	大テーマ	テーマ
地域づくりや建築の原点に返る旅	風景、気候、風土、文化	私の目指す風景と地域づくりを巡る旅 素朴な日本の風景を実感する旅 大景観を実感する旅 眺望景観の魅力を実感する旅 流域景観の魅力を実感する旅 港の風景と風土を巡る旅 造船所のある風景を巡る旅 気候や風土の違いを体感する旅 異文化を体感する旅 自然・歴史・食を楽しむ温泉ツーリズムの旅
	町並み、集落、地域、路地、市場	伝統的建造物群保存地区を巡る旅 歴史的町並みを巡る旅 ヨーロッパの伝統的町並みを巡る旅 重要文化的景観を巡る旅 集落を巡る旅 身近な街道の旅 寺町を巡る旅 武家屋敷を巡る旅 歴史的港町を巡る旅 川港のまちを巡る旅 路地の魅力を体感する旅 昔ながらの市場を巡る旅 まちなか歴史散策の旅 思い出の場所を再訪する旅 思い出の通学路を巡りながら故郷の再生を考える旅
	歴史的建造物、現代建築	身近な世界遺産を巡る旅 石橋の魅力を体感する旅 歴史あるお寺や神社を巡る旅 赤煉瓦建築を巡る旅 わが国の近代化の歩みを体感する旅 今も息づく蔵を巡る旅 時代を超えて使われ続ける建築を巡る旅

大テーマ		テーマ
地域づくりや建築の原点に返る旅	歴史的建造物、現代建築	現代建築を巡る旅 スターバックス建築を巡る旅 思い出の建築を巡る旅 建築展を巡る旅
	季節、花、樹木、鉄道	歴史的建造物と桜巡りの旅 桜巡りの旅 歴史的建造物と紅葉巡りの旅 紅葉巡りの旅 四季を実感する旅 歴史的町並みとお雛様巡りの旅 松原の魅力を実感する旅 樹木を巡る旅 ローカル線の旅 鉄道ミュージアムを巡る旅
	モノ、ヒト、コト（ストーリー）	鳥の目・虫の目・魚の目の旅 一つひとつのストーリーの積み重ねを実感する旅 平和の大切さを実感する長崎巡礼の旅 前向き思考の旅 一人一花を実感する旅 こだわりの書店とアートギャラリーを巡る旅 本や画に魅了されてアートと歴史を巡る旅 こだわりの場所を定期的に訪問する旅 出張先での思いがけない発見の旅 まちづくり活動を通じた思いがけない再会の旅
熊本の復興の過程を巡る旅		熊本地震の脅威を実感する旅 熊本の復興の過程を巡る旅 自然の治癒力を実感する旅
身近なまち旅		「博多湾姪浜 夢海道(回廊)&海遊(回遊)」の旅 お気に入りのフィールドを巡る旅 職場近くや仕事ついでのちょこ旅

2 景観づくりや地域づくりの魅力を伝える62のテーマと概要

次ページ以降に 62 のテーマに沿って、小さなまち旅を通して筆者が感じたことを紹介する (Part.1 で紹介したものと重複するものあり)。それぞれの事例に関する情報は、関連するホームページで検索していただければ、より詳しい内容を知ることができる。

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	私の目指す風景と地域づくりを巡る旅①	場所	尾道市

地域の個性を形成する重要な要素の一つが風土、気候、地形等であり、これらに沿って各地域独自の生活が営まれ、固有の歴史や文化、町並みが形成されてきた。中でも印象に残るのが、尾道の風景である。尾道市のパンフレットを見ると「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市～ああ、この風景に会いたかったんだ。」と記されている。

尾道水道と尾道三山の間の限られた空間に、多くの寺社や家々がひしめき、坂道と路地でつながる景色が「箱庭」に例えられてきており、懐かしい心象風景を思い起こさせてくれる。

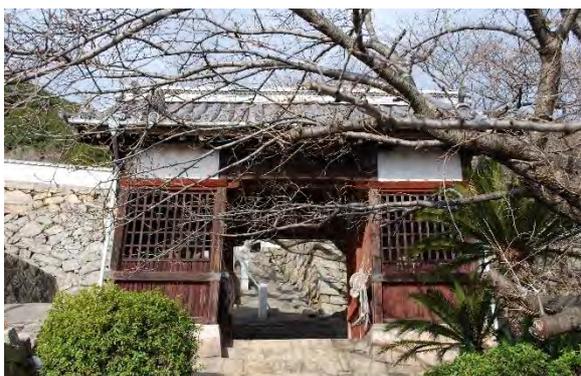
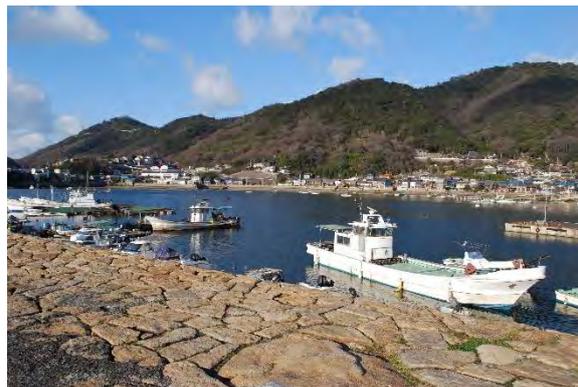


尾道市 尾道を象徴する景観

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	私の目指す風景と地域づくりを巡る旅②	場所	福山市

福山市鞆の浦の港町の風景も印象的である。鞆の浦は伝統的建造物群保存地区に選定された時の資料によると「万葉の時代より潮待ちの港として栄えた瀬戸内海の港町」と表現されており、地形的に良好な港の条件を備え、古来より海上交通の要衝として栄えた。

現在も雁木、波止、常夜灯、船番所、焚場といった江戸時代の港湾施設がほぼ完全な形で残っている。そして、街路や海岸線も 300 年前の姿をよく留めており、伝統的な町家や寺社、石垣等の石造物、港湾施設等が一体となって良好に残り、瀬戸内の港町としての歴史的風致をよく伝えている。



福山市 鞆の浦を象徴する景観

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	素朴な日本の風景を実感する旅①	場所	うきは市、天草市等

いろいろな地域を旅していると素朴な日本の風景に出会うことがある。農山村の風景であったり、漁村の風景であったり、信仰の風景であったりと様々であり、懐かしさを感じさせるとともに、ほっとする空間を提供している。地元の人にとっては見慣れた風景かもしれないが、地域外からの来訪者にとっては日本の原風景といえるものである。

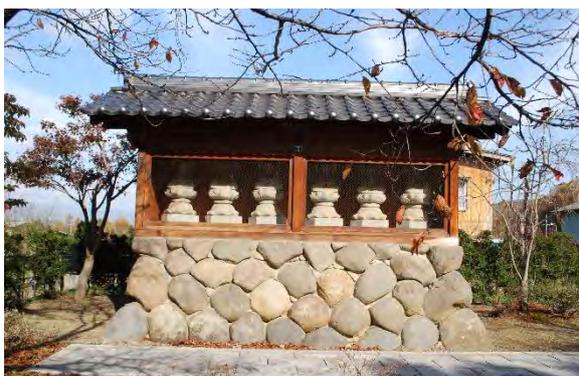
全国的に個性のない画一的な街並みの形成が進む中で、それぞれの地域に根ざした魅力資源を探求し、最大限に活用していくことが地域固有の風景の保全・創出につながり、地域のアイデンティティを確立していくのである。



うきは市 つづら棚田の農山村の風景



天草市 崎津集落の漁村の風景



小布施町 信仰の風景

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	素朴な日本の風景を実感する旅②	場所	柳川市、別府市

名の知れた地域や場所でなくても、素朴な日本の風景にふと出会うことがある。普段見慣れない風景に思わず電車を途中下車して訪ねてみたり、観光名所となっている場所から一步入った路地で予期せぬ空間に出会ったりと、旅先では思わぬ発見がある。共通しているのは、懐かしさを感じさせる風景である。地元の人にとっては見慣れた風景でも、来訪者にとっては日本の原風景といえるものである。

こうした身近な資源を活用し、地域固有の風景の保全・創出につなげ、地域のアイデンティティを確立してほしい。



柳川市 矢部川橋梁付近の漁村風景



柳川市 沖端の漁村集落



別府市 上人ヶ浜温泉周辺の住宅地の別府石の塀による統一感のある街並み

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	素朴な日本の風景を実感する旅③-1	場所	伊万里市

今回の研究の終盤となる 2021 年の春に、松浦鉄道沿線の風景で気になっていた伊万里市山代町の楠久(くすく)地区と東山代町の里地区を訪問する機会があった。

楠久地区は隣の楠久津(くすくつ)地区とともに佐賀藩が海上交通の要衝であった伊万里湾の抑えとして番所を整備した歴史があり、今でも船奉行宅地や本陣、寺社、港湾施設等の史跡が約 50 ヶ所にわたって点在している。また、創業 300 年余を有する松浦一酒造を中心に当時の名残を感じさせる町並みが続いている。フットパスのコースもあり、こだわりのカフェや飲食店、和菓子屋等とともに、まち歩きの楽しさを演出している。
(次ページに続く)



伊万里市 山代町楠久地区の町並みと魅力資源

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	素朴な日本の風景を実感する旅③-2	場所	伊万里市

(次ページから続く)

里地区では、1589年に筑後国柳川の鷹尾城主だった田尻氏が山代の地に移封され、山代郷を支配することになった際に、里集落を東西に伸びる「小路(くうじ)」と呼ばれる街路が整備された。その両側には田尻氏の家臣たちが屋敷を構えていたとされ、緑豊かな矢竹の生垣が整然とならぶ姿が往時の武家屋敷の姿を偲ばせている。また、周辺には寺社等の史跡や田園も多く、素朴な日本の風景を感じさせている。

楠久地区や里地区においても、身近な資源を活用し、地域固有の風景の保全・創出につなげ、地域のアイデンティティを確立していってほしい。



伊万里市 東山代町里地区の
町並みと魅力資源

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	大景観を実感する旅①-1	場所	鹿児島市、阿蘇市等

画一化する街並みの中で地域の個性を感じにくくなっているが、市域等の広い空間で見るとそれを実感しやすい。代表的なものが、地形がもたらす風景(=大景観)である。シンボルとなる山が見える景観であったり、広大な草原景観や海の景観であったりする。市街地においても美しい海・山・空で構成される景観や坂・海・山で構成される景観がある。いずれも景観のダイナミズムを感じさせるものであり、地域のシンボルとなっている。

景観づくりにあたっては、大景観から考えることで地域の個性を明確にすることが重要である。



鹿児島市 市内の至る所から見える桜島



阿蘇市 四季折々の変化がある草千里



佐世保市 展海峰から見た九十九島の景観(左)と佐世保湾の景観(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	大景観を実感する旅①-2	場所	唐津市、函館市等

画一化する街並みの中で地域の個性を感じにくくなっているが、市域等の広い空間で見るとそれを実感しやすい。代表的なものが、地形がもたらす風景(=大景観)である。シンボルとなる山が見える景観であったり、広大な草原景観や海の景観であったりする。市街地においても美しい海・山・空で構成される景観や坂・海・山で構成される景観がある。いずれも景観のダイナミズムを感じさせるものであり、地域のシンボルとなっている。

景観づくりにあたっては、大景観から考えることで地域の個性を明確にすることが重要である。



唐津市 鏡山からの景観(左)、福岡市 福岡タワーからの景観(右)



函館市 坂・海・山・空が織り成す景観(左)、市街地・海・山・空が織り成す景観(右)



小樽市 運河・山・空が織り成す景観(左)、由布市 市街地・山・空が織り成す景観(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	眺望景観の魅力を実感する旅	場所	長崎市、尾道市等

大景観と関連するが、眺望ポイント(山、丘、海、河川、展望台、高層ビル等)に行くと、地形や都市の骨格がよくわかる。それらを理解することは、地域特性の把握につながり、地域への誇りや愛着につながると筆者は考えている。

地勢(港町や山間のまち、平野部等)、都市規模の大小等でそれぞれ異なった地域特性があり、眺望ポイントから見える景観(市街地の広がり・形、山、海岸線、道、川、線路、建物等)を通して、地域づくりや景観づくりのヒントを得ることができる。



長崎市 グラバー園からの景観(左)、尾道市 千光寺付近からの景観(右)



唐津市 鏡山からの景観(左)、高森町 高森殿の杉付近からの景観(右)



ハイデルベルク城からの景観(左)、ローテンブルク市庁舎からの景観(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	流域景観の魅力を実感する旅	場所	矢部川流域

大景観や広域景観を実感しやすいのが河川流域の景観である。山間部の上流域から中流域を経て、海につながる下流域に至るまで治水利水だけでなく生態系、歴史、文化、営み等の面で相互につながりを持つ多様な景観が創出されている。各流域の地域特性を大切に、そこに暮らす人々の誇りや愛着を醸成しながら、流域全体で市町村の境界を超え相互に連携して景観保全に取り組み、各地域及び流域全体のアイデンティティを確立して欲しい。

ここでは、八女市矢部村～柳川市・みやま市の有明海に注ぐ矢部川流域を紹介する。



矢部川上流域 八女市矢部村の山村景観



矢部川中流域 八女市黒木町の歴史的町並み



矢部川下流域 筑後市～みやま市の矢部川と大楠林の景観(左)、柳川市～みやま市の漁村景観(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	港の風景と風土を巡る旅	場所	長崎市、佐世保市等

港には工業製品・エネルギー・食料等の貿易・輸送を支える機能、津波や高潮等の自然災害に対する防災機能の他、観光やレクリエーション機能等の各地域に根ざした様々な役割があり、それらの役割に応じて停泊する船も貨物船やフェリー、客船、漁船など様々であり、独特の風景が創出されている。

また、軍港や豪華客船が停泊する大きな港から漁村の小さな港まで規模も様々であり、それぞれの歴史や生活が息づく風景が創られ、地域のアイデンティティとなっている。



長崎市 長崎港(左)、佐世保市 佐世保港(右)



北九州市 門司港(左)、函館市 函館港(右)



福山市 鞆の浦港(左)、唐津市 呼子港(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	造船所のある風景を巡る旅	場所	長崎市、佐世保市等

造船所は造る船の大きさや種類に応じて大小様々なものがあり、特に大きなクレーンを有する造船所は市内の各所から見え、ランドマークとなっている。長崎市にある三菱重工長崎造船所は前身の長崎鎔鉄所時代を含め 160 年以上の歴史があり、世界遺産の構成資産の一つであるジャイアント・カンチレバークレーンは 110 年以上経た今も現役で稼働し、長崎市のシンボルの一つとなっている。

また、佐世保市にある佐世保重工業佐世保造船所は旧海軍時代から続く歴史ある造船所で、佐世保市ならではの景観を形成している。



長崎市 三菱重工長崎造船所



佐世保市 佐世保重工業佐世保造船所



福岡市 福岡造船福岡工場

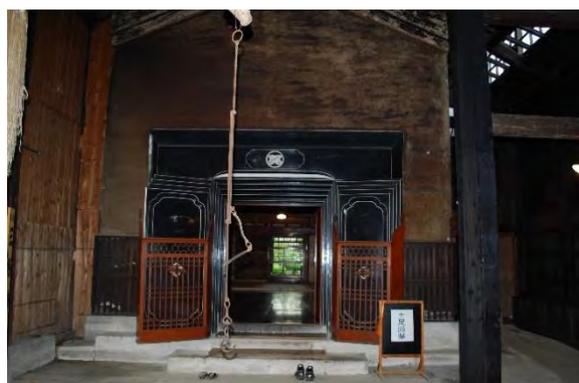
大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	気候や風土の違いを体感する旅	場所	洞爺湖町、阿蘇市等

全国各地を旅していると、気候や風土の違いを実感することが多い。わかりやすいのが、山の表情や建物の屋根の形・材料かもしれない。北海道の有珠山(洞爺湖町等)や熊本県の阿蘇山(阿蘇市等)、鹿児島県の開聞岳(指宿市)を比較すると、火山の種類や撮影時期は異なるが、植生の違いが明らかである。

町並みを比較すると、秋田県の横手市増田地区の内蔵は雪国特有のものであり、地域の個性を醸し出している。また、福島県下郷町の大内宿の茅葺き屋根や沖縄県那覇市の首里金城地区の赤瓦葺きの屋根も地域固有のもので、地域のアイデンティティを確立している。



洞爺湖町等 有珠山(左、2018年10月)、阿蘇市等 阿蘇山(右、2018年8月)



指宿市 開聞岳(左、2018年1月)、横手市 増田地区の内蔵(右)



下郷町 大内宿の茅葺き屋根の町並み(左)、那覇市 首里金城地区の赤瓦葺きの屋根(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	異文化を体感する旅①	場所	長崎市

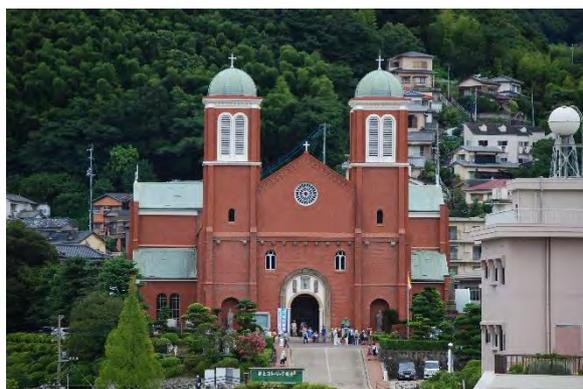
長崎市を旅していると、外国との交流の歴史(中国やオランダとの貿易、キリスト教の布教と幕府や明治政府からの迫害の歴史)とそれに伴う外国の文化を市内の随所に感じることができる。そうした歴史や文化を伝える寺院(崇福寺、興福寺、福濟寺、聖福寺等)、孔子廟、教会(大浦天主堂、浦上天主堂等)、日本二十六聖人記念館、出島等が今も市民生活や観光・交流の中に息づき、長崎市の大きな個性となっている。



長崎市 崇福寺



長崎市 孔子廟(左)、長崎市 大浦天主堂(右)



長崎市 浦上天主堂(左)、長崎市 二十六聖人記念館(右)

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	異文化を体感する旅②	場所	長崎市、天草市等

長崎市の出津教会は石積みの外海集落、また、天草市の崎津教会は漁村の崎津集落の中にあつて(両集落とも国の重要文化的景観に選定されている)、潜伏キリシタンの歴史が色濃く感じられ、世界遺産の構成資産の一つとなっている。

また、対馬市の厳原町にある萬正院は宗家累代の菩提寺であり、400 年以上の歴史がある。百雁木と呼ばれる対馬島内の石を使って作られた 132 段の階段は荘厳な雰囲気を感じさせ、九州本土と朝鮮半島の上に位置する離島という地域性が強く感じられる場所である。



長崎市 石積みの外海集落と出津教会



天草市 漁村の崎津集落と崎津教会

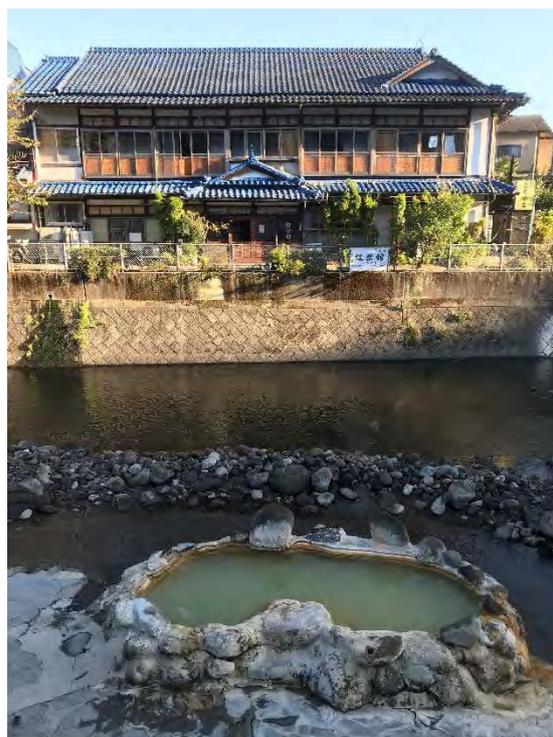


対馬市 萬松院

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	自然・歴史・食を楽しむ温泉ツーリズムの旅①-1	場所	竹田市

2020年の秋、ふとしたきっかけで大分県竹田市の長湯温泉を2回訪問した。芹川沿いに老舗の温泉旅館が建ち並び、風情ある景観を醸し出している。長湯温泉は「日本一の炭酸泉」と呼ばれ、血管を拡張させる重炭酸イオンが溶け込んでいるのが特徴とされ(重炭酸泉)、ぬるめの湯に長めに浸かると体が芯から温まるのが実感できる。

阿蘇くじゅう国立公園等の雄大な自然の中にある長湯温泉には特徴のある温泉の他、古くからの歴史を伝える神社やお寺、薬師堂、多くの文化人が詠んだ歌碑、大自然が育んだ豊かな湧き水、きれいな空気と水で育った地元食材を使った料理を提供する飲食店等があり、温泉に浸かるだけでなく、地域の自然や歴史、文化、食を楽しむことができる。長期滞在できる施設もあり、時間を見つけて長湯ならではの温泉ツーリズムや温泉療行を計画したいと考えている。



竹田市 長湯温泉 芹川沿いの温泉街の景観

大テーマ	風景、気候、風土、文化		
テーマ	自然・歴史・食を楽しむ温泉ツーリズムの旅①-2	場所	竹田市

2020年の秋、ふとしたきっかけで大分県竹田市の長湯温泉を2回訪問した。芹川沿いに老舗の温泉旅館が建ち並び、風情ある景観を醸し出している。長湯温泉は「日本一の炭酸泉」と呼ばれ、血管を拡張させる重炭酸イオンが溶け込んでいるのが特徴とされ(重炭酸泉)、ぬるめの湯に長めに浸かると体が芯から温まるのが実感できる。

阿蘇くじゅう国立公園等の雄大な自然の中にある長湯温泉には特徴のある温泉の他、古くからの歴史を伝える神社やお寺、薬師堂、多くの文化人が詠んだ歌碑、大自然が育んだ豊かな湧き水、きれいな空気と水で育った地元食材を使った料理を提供する飲食店等があり、温泉に浸かるだけでなく、地域の自然や歴史、文化、食を楽しむことができる。長期滞在できる施設もあり、時間を見つけて長湯ならではの温泉ツーリズムや温泉療行を計画したいと考えている。



ラムネ温泉館(左)、お食事処 正直屋のとり天定食(右)



湯乃原天満社(左)と境内にある薬師如来(中)、陽光院薬泉堂という飲泉場(右)



長湯温泉街で見かけた文化人が詠んだ歌碑
竹田市 長湯温泉

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	伝統的建造物群保存地区を巡る旅①	場所	函館市、仙北市等

地域の風土や歴史、文化が息づく最たる例は、伝統的建造物群保存地区に代表される歴史的な町並みであろう。北海道から沖縄まで気候、風土、文化等が異なり、それに応じた個性豊かな町並みが形成されてきた。宿場町や門前町、武家屋敷や城下町、在郷町、社寺町等の多くの歴史的な町並みが、少子高齢化の進行、後継者不足等の様々な課題を乗り越えて、多くの人々の地域への誇りと努力、そして自治体や国の強い支援によって維持継承されている。そして、国内外から多くの来訪者が訪れ、地域の方々との交流を通じて、その魅力を体験体感している。



函館市 元町末広町(左)、仙北市 角館(右)



喜多方市 おたづき 小田付(左)、下郷町 大内宿(右)



川越市 川越(左)、倉敷市 倉敷川畔(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	伝統的建造物群保存地区を巡る旅②	場所	八女市、うきは市等

北部九州にも八女福島(八女市)や筑後吉井(うきは市)、浜中町八本木宿(鹿島市)、有田内山(有田町)、東山手(長崎市)、神代小路(雲仙市)等、各地域の気候、風土、文化等に根ざした固有の町並みが形成されている。

現在、全国には123(2020年12月23日現在)の国の重要伝統的建造物群保存地区がある。町並みの維持継承には様々な課題があるが、今後も官民一体となって、各地域固有の風土や歴史を活かしたまちづくりを進めていってほしい。



八女市 八女福島(左)、うきは市 筑後吉井(右)



鹿島市 浜中町八本木宿(左)、有田町 有田内山(右)



長崎市 東山手(左)、雲仙市 神代小路(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	歴史的町並みを巡る旅①	場所	小樽市、長岡市等

重要伝統的建造物群保存地区以外にも地域の気候、風土、文化等に根ざした歴史的な町並みは数多く存在する。筆者が最近訪問した地域では、小樽運河とその周辺に点在する歴史的建造物による港町・小樽を象徴するノスタルジックな町並み、20世紀初め頃のレトロな建物が建ち並ぶ会津若松市七日町通りの町並み、長岡市^{やち}谷内の雁木のある雪国特有の町並み、連続した黒塀により城下町らしさが感じられる村上市安善小路の町並み、武家屋敷や白壁の土蔵等が建ち並び城下町の名残を色濃く残す臼杵市二王座周辺の町並み等が印象に残っている。



小樽市 小樽運河周辺(左)、会津若松市 七日町通り(右)



長岡市 ^{やち}谷内(左)、村上市 ^{あんぜんこうじ}安善小路(右)



臼杵市 臼杵(左)、那覇市 首里金城地区(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	歴史的町並みを巡る旅②	場所	北九州市、福岡市等

筆者の身近な福岡県内では、^{こやのせ}木屋瀬(北九州市)や^{ごくしよ}御供所(福岡市)、^{こぼ}内野(飯塚市)、^{えのまづ}小保・榎津(大川市)、赤間宿(宗像市)、津屋崎(福津市)等において、各地域固有の歴史的な環境を活かした町並みが形成されている。この中には伝統的建造物群保存地区を目指して活動を推進している地域もある。

町並みの維持継承には様々な課題があるが、地域内の連携強化と行政との協働のまちづくりの推進により、その地域ならではの個性を活かしたまちづくりを進めていってほしい。



北九州市 ^{こやのせ}木屋瀬(左)、福岡市 ^{ごくしよ}御供所(右)



飯塚市 ^{こぼ}内野(左)、大川市 ^{えのまづ}小保・榎津(右)



宗像市 赤間宿(左)、福津市 津屋崎(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	ヨーロッパの伝統的町並みを巡る旅①-1	場所	ドイツ

ヨーロッパにおいては、スクラップ&ビルドの繰り返しで地域固有の町並みが大きく失われた日本と違い、各地域の風土や歴史、文化を活かした美しい町並みが形成され、現在も継承されている。中世の面影が色濃く残るまちやカラフルに彩られたまち、自然景観豊かなまちなど様々であるが、地域に根ざした固有の町並みが創出され、国内外から多くの来訪者が訪れ、賑わいを見せている。

ここでは、筆者の訪問回数が比較的多いドイツの中で、2019年5月に訪れた都市の町並みを紹介する。



ローテンブルク



ハイデルベルク

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	ヨーロッパの伝統的町並みを巡る旅①-2	場所	ドイツ

ヨーロッパにおいては、スクラップ&ビルドの繰り返しで地域固有の町並みが大きく失われた日本と違い、各地域の風土や歴史、文化を活かした美しい町並みが形成され、現在も継承されている。中世の面影が色濃く残るまちやカラフルに彩られたまち、自然景観豊かなまちなど様々であるが、地域に根ざした固有の町並みが創出され、国内外から多くの来訪者が訪れ、賑わいを見せている。

ここでは、筆者の訪問回数が比較的多いドイツの中で、2019年5月に訪れた都市の町並みを紹介する。



ビュルツブルク



リュースハイム



ガルミッシュパルテンキルヘン

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	ヨーロッパの伝統的町並みを巡る旅②	場所	イギリス

コッツウォルズ地方はロンドンから約 200 km西に位置し、イギリスで最もイギリスらしいカントリーサイドの風景が残る地方であり、自然景勝地域に指定されている。コッツウォルズ地方固有の景観を創り出しているのは魚卵状石灰岩であり、人々はそれを材料にして、知恵と労力と見事な技巧を駆使し、小さな田舎家や壮大な邸宅、そびえ立つ教会等を生み出した。

今回は典型的なイギリスの美しい村と言われているカッスル・クームと、コッツウォルズ地方の中でもひと際その美しさを讃えられているバイブリーを紹介する。



カッスル・クーム

バイブリー

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	重要文化的景観を巡る旅①	場所	長崎市、天草市

伝統的町並みを有する地域以外にも日々の生活に根ざした身近な景観は多く存在する。その代表的なものが重要文化的景観である。長崎市の外海(そとめ)集落は練壁(結晶片岩の石に赤土及び藁すさを練り込んで築いた伝統的な石壁)やド・ロ壁(パリ外国宣教会のド・ロ神父によって藁すさに代わり赤土に石灰を混ぜる練積みの石壁)等の多種多様な石積み構造物による景観が大きな特徴である。

また、天草市の崎津集落はゴシック様式の崎津教会を中心にトウヤ(軒を連ねる家々に挟まれ形成された海に出るための小路)やカケ(船舶の碇泊や漁具の整備・魚干し等の生業施設である海上に張り出した構造物)等により特徴的な漁村景観を形成している。(次ページのコラム参照)



長崎市 そとめ 外海集落と出津教会



天草市 崎津集落と崎津教会

【参考】外海集落と崎津集落

(2017年12月までに執筆したコラムより)

2016年の夏に長崎市外海^{そとめ}と天草市崎津の集落を巡る旅に出た。外海は初めての訪問であり、目的は出津教会を見ることであった。出津教会に到着するまで至る所に見られる石積みがこの集落の特徴であることがすぐにわかった。

長崎市のホームページによると、集落の中には、斜面地を開墾した際に出土した結晶片岩を用いて、土留めの石垣、防波・防風の石築地、居住地の石塀、住居・蔵の石壁など多種多様の石積み構造物が築かれてきた。石積みは、結晶片岩の石に赤土及び藁すさを練り込んで築いた伝統的な石壁である「練塀」のほか、明治期にはパリ外国宣教会のド・ロ神父によって藁すさに代わり赤土に石灰を混ぜる練積みの「ド・ロ壁」が導入され、現在もこうした石積み構造物が数多く残されている。このように、外海の石積集落には、生活生業に関連した多種多様な石積み構造物がみられ、この地域特有の石積文化の集落景観が形成されている(2012年に国の重要文化的景観に選定)。



そとめ
外海の石積集落景観

(次ページに続く)

また、崎津は2004年の夏以来、12年振りの訪問となった。前回は車で立ち寄る程度で崎津教会のイメージしか残っていなかったが、今回は教会を中心とした漁村集落を散策した。羊角湾の穏やかで青緑色の海が印象的で、漁船が港に集い、町の中心部にゴシック様式の崎津教会がそびえている。肩を寄せ合うように建つ民家や路地、「トウヤ」と呼ばれる軒と軒の間にある路地が景観を特徴付けている。名物の「杉ようかん」のお店、寿司屋の他、最近ではカフェや資料館もオープンし、地域づくりを目指す人たちが町の魅力を伝えようと動き始めている。

集落の約70%がキリシタンだった崎津集落は、禁教期にも信仰が密かに続いた小さな漁村であり、1873年のキリスト教の禁教が解かれるまでの250年もの間の弾圧・潜伏・キリスト教復活に至る痕跡を見ることができる。2011年に国の重要文化的景観に選定され、現在、崎津集落を含む「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」が、2018年の世界文化遺産の登録を目指し、改めて推薦候補に選定されている。（※2018年7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録された。）

外海集落や崎津集落を訪問することで、改めて地域の風土や歴史を活かしたまちづくりの重要性を痛感した。

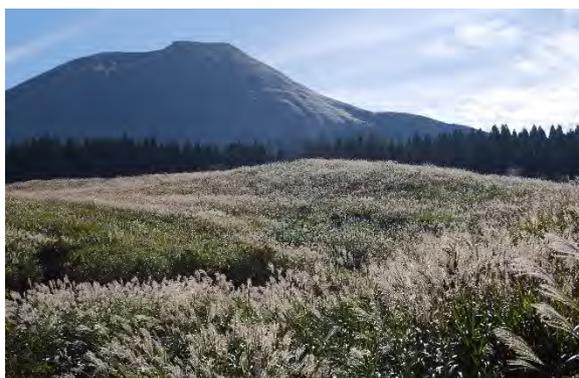


崎津の集落景観

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	重要文化的景観を巡る旅②	場所	阿蘇市、宇城市等

この他にも筆者がよく訪れる身近な場所としては、阿蘇の文化的景観・草原景観・森林景観(阿蘇市、南阿蘇村等)や三角浦の文化的景観(宇城市)、小鹿田焼の里(日田市)、田染荘たしぶのしょう小崎の農村景観(豊後高田市)等があり、日々の生活に根ざした身近な景観が形成されている。

現在、全国で 65(2019 年 10 月 16 日現在)の重要文化的景観が選定されており、その文化的な価値を正しく評価し、地域で守り、次世代へと継承していってほしい。



阿蘇市等 阿蘇の草原景観



宇城市 三角浦の文化的景観(三角西港)

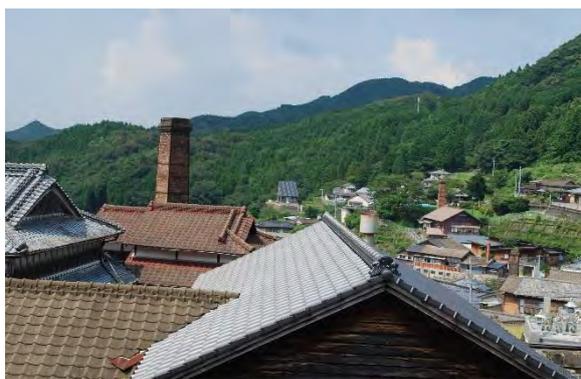


日田市 小鹿田焼の里

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	集落を巡る旅①	場所	波佐見町、有田町等

筆者は現在の仕事の関係もあり長崎県内や佐賀県内のいろいろな場所を訪問しているが、その中で印象に残っているのが波佐見町の「陶郷・中尾山」の集落景観である。ここは江戸時代の正保元年（1644年）の磁器の生産開始以来、国内有数の焼物の里として知られている波佐見町南東部の集落であり、谷間の空に伸びる煉瓦造りの煙突群が陶芸の里としての佇まいを残し、個性的な産業景観を生み出している。

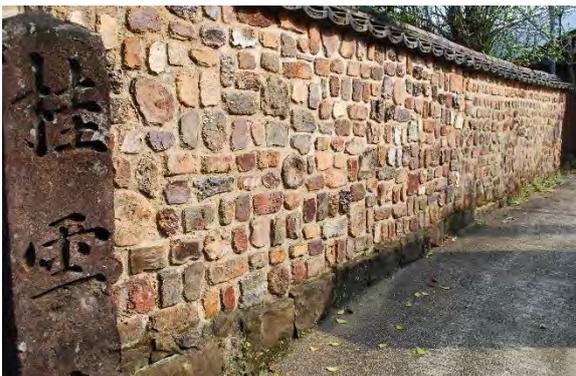
また、伊万里市の大川内山の煙突群や有田町のドンバイ塀も独特の景観を創出している。



波佐見町中尾山 煙突群が創り出す集落景観



伊万里市大川内山 煙突群が創り出す集落景観



有田町 ドンバイ塀が創り出す集落景観

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	集落を巡る旅②	場所	東峰村、うきは市等

筆者は広域連携や都市と農山村の交流・連携に興味があることもあり、身近な棚田を訪問する機会も多い。農山村では住民の高齢化が進んでいることもあり、棚田の維持・継承にも様々な課題を抱えている。それは都市の中で伝統的町家を維持・継承していくことと同じ状況であり、筆者はそれらを重ね合わせながら各地域を訪問している。

農山村の棚田オーナー制度や都市部の町家の保存・活用等は、地域の宝を将来にわたり継承していくための方策であり、いろいろな地域を訪問して見聞する中で、地域づくりのヒントを得ることができるのである。



東峰村 竹地区の棚田



うきは市 つづら棚田



豊後高田市 田染荘 たしぶのしょう

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	集落を巡る旅③	場所	唐津市

漁村集落については、今まで福山市の鞆の浦や天草市の崎津集落等を紹介してきたが、筆者の身近な場所にも漁師町の雰囲気を感じられる場所がある。唐津市の呼子町は松浦半島の入江に面する細長い港町で、古くから海上交通の要塞、捕鯨船の根拠地として繁栄した。

名物のイカや朝市が多くの人を惹きつけ、捕鯨とゆかりのある商家や屋敷、寺社等が建ち並ぶ一方、来訪者があまり足を踏み入れない路地には古い町並みが広がり、江戸時代の面影を残す建物も多い。地域内のいろいろな場所で捕鯨や漁師町の痕跡を感じることができる。



唐津市呼子町 海の風景



唐津市呼子町 朝市の風景(左)、瓦屋根が続く町並み(右)



唐津市呼子町 商家が建ち並ぶ町並み(左)、鯨組主中尾家屋敷(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	身近な街道の旅①-1	場所	唐津街道

筆者の身近な街道の旅は、唐津街道と長崎街道である。ここ数年で訪問回数が多いのは、唐津街道沿いでは宗像市、福岡市、唐津市、長崎街道沿いでは鳥栖市、佐賀市、鹿島市、諫早市、大村市、長崎市である。宿場町や寺町、門前町、松並木であったり、街道の起終点や分岐点、脇街道であったりと様々な特性を有しており、それぞれの地域の歴史や魅力を感じることができる。

特性を持った各地域が相互に補完連携し、個性を磨きながら有機的にネットワークすることで、街道全体及び各地域のさらなる魅力向上につながると筆者は考えている。



唐津街道 宗像市赤間宿(左)、福岡市箱崎宿(右)



唐津街道 福岡市 ごくしよ 御供所地区の聖福寺(左)、福岡城址(右)



唐津街道 唐津市 虹の松原(左)、唐津城(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	身近な街道の旅①-2	場所	長崎街道

筆者の身近な街道の旅は、唐津街道と長崎街道である。ここ数年で訪問回数が多いのは、唐津街道沿いでは宗像市、福岡市、唐津市、長崎街道沿いでは鳥栖市、佐賀市、鹿島市、諫早市、大村市、長崎市である。宿場町や寺町、門前町、松並木であったり、街道の起終点や分岐点、脇街道であったりと様々な特性を有しており、それぞれの地域の歴史や魅力を感じることができる。

特性を持った各地域が相互に補完連携し、個性を磨きながら有機的にネットワークすることで、街道全体及び各地域のさらなる魅力向上につながると筆者は考えている。



長崎街道 北九州市こやのせ木屋瀬宿(左)、飯塚市冷水峠(右)



長崎街道 佐賀市柳町(左)、脇街道である多良海道の鹿島市肥前浜宿(右)



長崎街道 大村市松原宿(左)、長崎市崇福寺(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	身近な街道の旅②	場所	日向街道等

いろいろな地域に出かけて行くと予期せぬ街道に出会うことがある。古い町並みが連続しているわけではないが、道の形や建物の並び方、道標等により、かつては街道に面して栄えていたことが推測できる。現在は商店街の衰退、空き家の増加、少子高齢化等によりかつての賑わいはほとんど感じられないが、まちの形成の歴史や痕跡を感じることができる。

こうした歴史を後世に伝え、地域の活性化にどうつなげていくのかが大きな課題であるが、それは地域づくりの楽しさでもある。



日向街道 豊後大野市三重町市場



中津街道 行橋市 ^{ぎょうじ}行事付近(左)、大橋付近(右)



^{みくりや}御厨・今福街道 松浦市今福

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	寺町を巡る旅①	場所	福岡市、福山市等

寺町は日本全国の都市に見られ、多くの城下町においては寺院や墓地を市街の外縁にまとめ、敵襲に対して防衛線とする意図があつて計画的に配置された。身近な場所であれば、筆者が福岡市役所時代に携わった博多区の御供所地区が代表的な寺町であり、多くの寺院により都心部に位置しながらも福岡市内でも有数の歴史的環境を有し、コントラストのある都心づくりの一翼を担っている。

また、福山市の鞆の浦や中津市、島原市もお城周辺に寺院が集積して寺町と呼ばれるエリアを形成し、当時の面影を現在に伝えている。



福岡市 御供所の寺町



福山市 鞆の浦の寺町



中津市の寺町(左)、島原市の寺町(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	寺町を巡る旅②	場所	東京都台東区等

防衛の目的とは別に形成された寺町もある。台東区谷中は江戸時代に町人町に寺院が集められ、寺町が形成され門前町として繁栄していった。戊辰戦争の戦火や第二次世界大戦の空襲を免れ、坂と寺と路地のあるまちとして下町の風情を現在に伝えている。周辺の根津、千駄木を含め「谷根千」と呼ばれ、江戸情緒あふれるエリアとして人気を博している。

また、尾道市や長崎市の斜面地にも寺院が集積し、寺町と呼ばれるエリアを形成し、坂と寺と路地のあるまちとして多くの来訪者が訪れる魅力スポットとなっている。



東京都台東区 谷中の寺町



尾道市の寺町



長崎市の寺町

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	武家屋敷を巡る旅①-1	場所	仙北市、高梁市等

16世紀末から17世紀初めにかけて建設された城下町では、軍事的配慮と封建的な身分制度に基づき武士、商人、職人等の居住区や寺社等が配置され、武家町は主にお城の近くに置かれた。広い敷地割と生垣や板塀、石塀による町並みが特徴で、道路に面して建つ町家と異なり、建物が建て替わっても町並みの連続性が維持され、当時の面影を現在に伝えている。

また、生垣の種類や塀の造り方により地域性が感じられるのも武家屋敷の特徴である。その一方、過疎化、少子高齢化、空き家の増加等が町並みを維持継承していく上での大きな課題となっている。



仙北市 角館の武家屋敷



高梁市 旧城下の武家屋敷



島原市 したんちょう 下ノ丁の武家屋敷

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	武家屋敷を巡る旅①-2	場所	雲仙市、大村市等

16世紀末から17世紀初めにかけて建設された城下町では、軍事的配慮と封建的な身分制度に基づき武士、商人、職人等の居住区や寺社等が配置され、武家町は主にお城の近くに置かれた。広い敷地割と生垣や板塀、石塀による町並みが特徴で、道路に面して建つ町家と異なり、建物が建て替わっても町並みの連続性が維持され、当時の面影を現在に伝えている。

また、生垣の種類や塀の造り方により地域性が感じられるのも武家屋敷の特徴である。その一方、過疎化、少子高齢化、空き家の増加等が町並みを維持継承していく上での大きな課題となっている。



雲仙市 こうじろくうじ 神代小路の武家屋敷



大村市 うわこうじ 上小路の武家屋敷(左)、くさばこうじ 草場小路の武家屋敷(右)



対馬市 巖原の武家屋敷

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	武家屋敷を巡る旅①-3	場所	杵築市、臼杵市等

16世紀末から17世紀初めにかけて建設された城下町では、軍事的配慮と封建的な身分制度に基づき武士、商人、職人等の居住区や寺社等が配置され、武家町は主にお城の近くに置かれた。広い敷地割と生垣や板塀、石塀による町並みが特徴で、道路に面して建つ町家と異なり、建物が建て替わっても町並みの連続性が維持され、当時の面影を現在に伝えている。

また、生垣の種類や塀の造り方により地域性が感じられるのも武家屋敷の特徴である。その一方、過疎化、少子高齢化、空き家の増加等が町並みを維持継承していく上での大きな課題となっている。



杵築市 北台の武家屋敷



臼杵市 臼杵の武家屋敷



那覇市 首里金城地区の武家屋敷

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	歴史的港町を巡る旅①	場所	福山市、尾道市等

港町は中世や近世の頃から発達したものもあれば、明治時代に港湾都市として繁栄したものもある。中世から港町を形成している地域には、福山市の鞆の浦や尾道市の市街地地区、唐津市の呼子等があり、交易と流通の拠点として発展し、当時の名残を伝える町並みや新旧の多彩な歴史的建造物等により、今でも歴史的な港町の風情を感じることができる。

それぞれ港町としての都市形成の歴史は異なるが、それを伝える施設も充実し、港町らしさを感じることができる眺望ポイントもあり、町並み散策とあわせて楽しむことができる。



福山市 鞆の浦



尾道市 市街地地区



唐津市 呼子

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	歴史的港町を巡る旅②	場所	函館市、小樽市等

明治時代に港湾都市として繁栄した地域には、函館市の元町末広町や小樽市の小樽、宇城市の三角西港等があり、海や運河に沿ってまちが発展した。また、同時に都市計画も行われ、関連する倉庫群や石橋群、住区等が造られた。

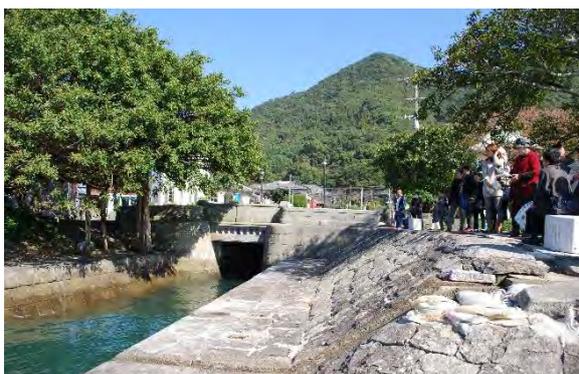
函館や小樽は観光地として、現在も国内外からの多くの来訪者で賑わっている。三角西港は建設当時と役割は変わり、港としての機能は三角港(東港)に移ってしまったが、当時の面影を残し、世界文化遺産の構成要素の一翼を担っている。



函館市 元町末広町



小樽市 小樽



宇城市 三角西港

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	川港のまちを巡る旅①	場所	嬉野市、柳川市

鉄道が普及する以前は物資の移送は舟運が中心であり、荷物の荷揚げ等の中継地点は経済の集積地点となり、米や木材、石材等の多くの物資が舟運によって運ばれ、川港町が発展していった。嬉野市の塩田津は川港としての特徴を伝える塩田石工による石垣や石段、土蔵、座蔵が建ち並び、長崎街道の陸運と有明海の水運を活かして商家町として発展した。

また、柳川市沖端は有明海に注ぐ沖端川河港の漁村集落の顔を持つ一方、沖端川と掘割とをつなぐ船溜りは柳並木、信仰の中心である水天宮等により魅力的な水辺空間を形成している。



嬉野市 塩田津



柳川市 沖端

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	川港のまちを巡る旅②	場所	熊本市
<p>熊本市川尻地区は古くから海外との交易港として開け、江戸時代以降は緑川流域の物資の集散地や熊本藩の水軍基地として、また薩摩街道の宿場町として栄えた。今でも当時の石造りの船着き場跡や藩の米蔵跡(国指定史跡)等が残り、酒蔵を中心とした古い町並みも継承されている。</p> <p>また、熊本市^{おしま}小島地区もかつての河港都市で、2016年の熊本地震で多くの商家が被害を受け伝統的な商家等は少なくなったが、船着き場跡や荷揚げ用の石段、航海の安全を祈念した恵比須像、醤油蔵等が当時の面影を伝えている。</p>			
<p>熊本市 川尻地区</p>		<p>熊本市 ^{おしま}小島地区</p>	

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	路地の魅力を体感する旅①-1	場所	東京都台東区等

人通りの多い大通りから一步脇道に入ったり、下町に行ったりすると様々な路地がある。ひっそりと佇む路地もあれば、賑わいのある路地もある。また、人情味溢れる路地や向こう三軒両隣のようなコミュニティ豊かな路地もあり、それぞれの地域の生活が見えてくる。共通しているのは、建物や塀、生垣に囲まれ、車が少なく安心して歩ける空間になっていることである。

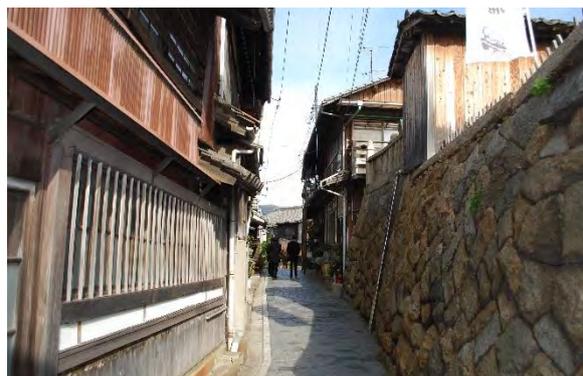
そして何よりも新しい都市空間にはない「迷路のようなワクワク感」や「進んでいく先に何があるのかのドキドキ感」が路地の最大の魅力ではないだろうか。



東京都台東区谷中 人通りの多い通り(左)から一步脇道に入った静寂の路地(右)



尾道市 市街地地区の路地



福山市 鞆の浦の路地

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	路地の魅力を体感する旅①-2	場所	長崎市、福岡市

人通りの多い大通りから一歩脇道に入ったり、下町に行ったりすると様々な路地がある。ひっそりと佇む路地もあれば、賑わいのある路地もある。また、人情味溢れる路地や向こう三軒両隣のようなコミュニティ豊かな路地もあり、それぞれの地域の生活が見えてくる。共通しているのは、建物や塀、生垣に囲まれ、車が少なく安心して歩ける空間になっていることである。

そして何よりも新しい都市空間にはない「迷路のようなワクワク感」や「進んでいく先に何があるのかのドキドキ感」が路地の最大の魅力ではないだろうか。



長崎市 東山手の路地(左)、唐人屋敷跡の路地(右)



長崎市 寺町の路地



福岡市御供所 聖福寺境内の路地(左)、普賢堂の路地(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	路地の魅力を体感する旅①-3	場所	天草市、小布施町等

人通りの多い大通りから一步脇道に入ったり、下町に行ったりすると様々な路地がある。ひっそりと佇む路地もあれば、賑わいのある路地もある。また、人情味溢れる路地や向こう三軒両隣のようなコミュニティ豊かな路地もあり、それぞれの地域の生活が見えてくる。共通しているのは、建物や塀、生垣に囲まれ、車が少なく安心して歩ける空間になっていることである。

そして何よりも新しい都市空間にはない「迷路のようなワクワク感」や「進んでいく先に何があるのかのドキドキ感」が路地の最大の魅力ではないだろうか。



天草市崎津集落 賑わいのある通り(左)から一步脇道に入った「トウヤ」と呼ばれる路地(右)



東京都新宿区 神楽坂の路地(左)、小布施町「栗の小径」と呼ばれる路地(右)



北九州市 鳥町食道街(左)、鹿児島市 名山堀の路地(右)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	昔ながらの市場を巡る旅①-1	場所	佐世保市

シャッター街が多くなる商店街の中で、大正から昭和にかけての昔ながらの市場が今でも息づいている場所がある。近海から水揚げされた海産物や水産加工品、青果、日曜雑貨、衣料品等の店が軒を並べ、古き良き大正や昭和のにおいがあちこちからしてきそうな生活感と人情味、コミュニティ溢れる商店街は、都市化が進展する中でレトロでディープな雰囲気漂わせている。

働く人々の高齢化と建物の老朽化が進む中で、昔から親しまれてきた市場を維持継承していくことは大変なことであるが、地域の貴重な宝物(魅力資源)として活用して欲しい。



佐世保市 とんねる横丁

佐世保市 戸尾市場街

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	昔ながらの市場を巡る旅①-2	場所	北九州市、別府市

シャッター街が多くなる商店街の中で、大正から昭和にかけての昔ながらの市場が今でも息づいている場所がある。近海から水揚げされた海産物や水産加工品、青果、日曜雑貨、衣料品等の店が軒を並べ、古き良き大正や昭和のにおいがあちこちからしてきそうな生活感と人情味、コミュニティ溢れる商店街は、都市化が進展する中でレトロでディープな雰囲気を漂わせている。

働く人々の高齢化と建物の老朽化が進む中で、昔から親しまれてきた市場を維持継承していくことは大変なことであるが、地域の貴重な宝物(魅力資源)として活用して欲しい。



北九州市小倉北区 旦過市場



北九州市若松区 大正町商店街えびす市場



別府市 べっぶ駅市場

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	まちなか歴史散策の旅①-1	場所	諫早市

歴史のある都市に行くと、まちなかにそれぞれの都市の歴史を物語る痕跡がある。現存するものとしては寺社や町家、石橋、樹木等、過去にあったものとしては旧〇〇、〇〇跡等がある。それらがまとまったエリアに集積していると、行政や観光協会等が出しているマップを片手に歩いて散策・回遊できる。案内サインや説明版が掲示されているところも多く、散策の手助けになる。

一つひとつは点であるが、回遊することで線や面としてつながり、都市の歴史を垣間見ることができる。実際に歩いて都市を知ることこそ、地域づくりの基本である。ここでは、諫早市や大村市、北九州市若松の事例を紹介する。

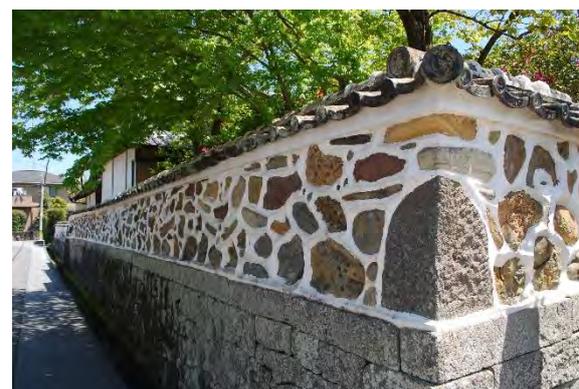


諫早市 まちなか歴史散策(島原鉄道本諫早駅周辺に多くの歴史資源が集積)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	まちなか歴史散策の旅①-2	場所	大村市

歴史のある都市に行くと、まちなかにそれぞれの都市の歴史を物語る痕跡がある。現存するものとしては寺社や町家、石橋、樹木等、過去にあったものとしては旧〇〇、〇〇跡等がある。それらがまとまったエリアに集積していると、行政や観光協会等が出しているマップを片手に歩いて散策・回遊できる。案内サインや説明版が掲示されているところも多く、散策の手助けになる。

一つひとつは点であるが、回遊することで線や面としてつながり、都市の歴史を垣間見ることができる。実際に歩いて都市を知ることこそ、地域づくりの基本である。ここでは、諫早市や大村市、北九州市若松の事例を紹介する。



大村市 まちなか歴史散策(JR大村駅～大村公園にかけて多くの歴史資源が集積)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	まちなか歴史散策の旅①-3	場所	北九州市

歴史のある都市に行くと、まちなかにそれぞれの都市の歴史を物語る痕跡がある。現存するものとしては寺社や町家、石橋、樹木等、過去にあったものとしては旧〇〇、〇〇跡等がある。それらがまとまったエリアに集積していると、行政や観光協会等が出しているマップを片手に歩いて散策・回遊できる。案内サインや説明版が掲示されているところも多く、散策の手助けになる。

一つひとつは点であるが、回遊することで線や面としてつながり、都市の歴史を垣間見ることができる。実際に歩いて都市を知ることこそ、地域づくりの基本である。ここでは、諫早市や大村市、北九州市若松の事例を紹介する。

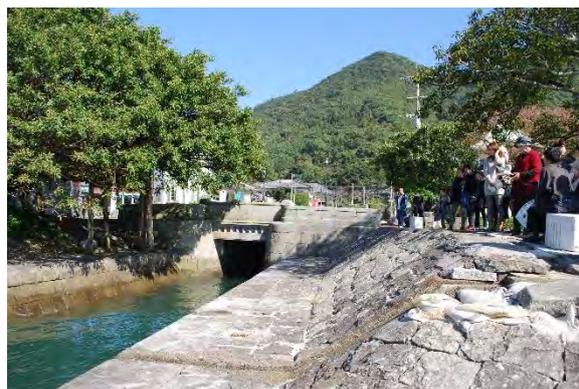


北九州市若松 まちなか歴史散策(若松港～JR若松駅にかけて多くの歴史資源が集積)

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	思い出の場所を再訪する旅①-1	場所	宇城市

筆者は大学に入学してから建築や都市を巡る旅を始め 2021 年3月で 45 年になるが、この間、思い出の場所や印象に残る場所を再訪することもある。例えば、大学の卒業研究のフィールドであった三角西港(宇城市)、広域連携や都市と農村の交流・連携に興味を持つきっかけとなったつづら棚田(うきは市)、地域づくりの原点である小布施町等である。海外の都市では、ベネチアやローテンブルク、ハイデルベルクの街並み、ベルリンの都市開発、シュトゥットガルトの環境にやさしい都市づくり等が印象に残り、再訪する機会に恵まれた。

筆者にとって、思い出の場所を再訪する旅は、建築や地域づくりの原点に戻る旅でもある。



左: 宇城市三角西港 寂れた漁村のイメージが強く、ほとんど来訪者のいなかった 1982 年2月。
 右: 2015 年に世界文化遺産に登録され、多くの来訪者で賑わうようになった 2017 年 11 月。

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	思い出の場所を再訪する旅①-2	場所	うきは市

筆者は大学に入学してから建築や都市を巡る旅を始め 2021 年3月で 45 年になるが、この間、思い出の場所や印象に残る場所を再訪することもある。例えば、大学の卒業研究のフィールドであった三角西港(宇城市)、広域連携や都市と農村の交流・連携に興味を持つきっかけとなったつづら棚田(うきは市)、地域づくりの原点である小布施町等である。海外の都市では、ベネチアやローテンブルク、ハイデルベルクの街並み、ベルリンの都市開発、シュトゥットガルトの環境にやさしい都市づくり等が印象に残り、再訪する機会に恵まれた。

筆者にとって、思い出の場所を再訪する旅は、建築や地域づくりの原点に戻る旅でもある。



左:うきは市つづら棚田 棚田オーナーとして都市と農村の交流活動に参加していた 2005 年5月、9月。
右: 久しぶりに訪問した 2018 年9月。黄金色に輝く稲穂と彼岸花が見頃を迎えていた。

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	思い出の場所を再訪する旅①-3	場所	小布施町

筆者は大学に入学してから建築や都市を巡る旅を始め 2021 年3月で 45 年になるが、この間、思い出の場所や印象に残る場所を再訪することもある。例えば、大学の卒業研究のフィールドであった三角西港(宇城市)、広域連携や都市と農村の交流・連携に興味を持つきっかけとなったつづら棚田(うきは市)、地域づくりの原点である小布施町等である。海外の都市では、ベネチアやローテンブルク、ハイデルベルクの街並み、ベルリンの都市開発、シュトゥットガルトの環境にやさしい都市づくり等が印象に残り、再訪する機会に恵まれた。

筆者にとって、思い出の場所を再訪する旅は、建築や地域づくりの原点に戻る旅でもある。



小布施町 1997 年～2000 年に3度訪問。「外はみんなのもの、内は自分のもの」「美日常」「小布施流のまちづくり」の考え方に刺激を受ける。2018 年 11 月に久しぶりに訪問。多くの来訪者で賑わっていた。

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	思い出の場所を再訪する旅①-4	場所	ドイツ

筆者は大学に入学してから建築や都市を巡る旅を始め 2021 年3月で 45 年になるが、この間、思い出の場所や印象に残る場所を再訪することもある。例えば、大学の卒業研究のフィールドであった三角西港(宇城市)、広域連携や都市と農村の交流・連携に興味を持つきっかけとなったつづら棚田(うきは市)、地域づくりの原点である小布施町等である。海外の都市では、ベネチアやローテンブルク、ハイデルベルクの街並み、ベルリンの都市開発、シュトゥットガルトの環境にやさしい都市づくり等が印象に残り、再訪する機会に恵まれた。

筆者にとって、思い出の場所を再訪する旅は、建築や地域づくりの原点に戻る旅でもある。



ローテンブルク(左)、ハイデルベルク(右)。1987年に初めて訪問、2019年に再訪。ローテンブルク市庁舎やハイデルベルク城から見る統一された瀟洒な市街地の街並みはほとんど変わっていなかった。

大テーマ	町並み、集落、地域、路地、市場		
テーマ	思い出の通学路を巡りながら故郷の再生を考える旅	場所	行橋市

筆者の故郷は福岡県行橋市であり、高校卒業まで過ごした。当時は商店街も賑やかで北九州市のベッドタウンとして発展していた。当時から人口は増えているが、実家に帰る度に商店街が衰退し、まちの中心部の活気がなくなっていくのが気になっていた。ウォーキングを兼ねて小中高時代の通学路を中心に散策してみると、当時からある寺社や行橋赤レンガ館(旧百三十銀行行橋支店)、町家、煉瓦造りの塀等が懐かしく感じられた。

2020年の春に図書館もまちなかに移転し、JR 行橋駅～商店街～図書館の回遊動線が強化された。これをきっかけとして、商店街に活気が戻ってくることを期待したい。高齢社会ゆえに周辺の歴史的資源も含めて活性化策を検討していったらいいのではないだろうか。



行橋市 JR 行橋駅(左)、活気と賑わいに欠ける駅前通り(右)



1914年に辰野金吾監修によって建てられた行橋赤レンガ館と2020年の春にオープンした図書館等の複合施設(左)、行事館屋の門と赤煉瓦造りの塀(右)。市の中心部には赤煉瓦造りの塀が点在している。



小倉と中津を結ぶ旧中津街道の行事付近の町並み(左)、江戸時代に年貢米を川船で運ぶために造られた掘割(右)